

vSpace Pro Enterprise Edition for Windows

Version 12.5.2

RELEASE NOTES (日本語版)

2021,04,02



400 CONCAR DRIVE 4TH FLOOR | SAN MATEO | CALIFORNIA 94402

製品リリースノート:

NComputing vSpace Pro Enterprise Edition

製品情報: NComputing vSpace Pro Enterprise Edition for Windows

Version: 12.5.2

対応するOS*:

- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2 U1
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2 SP1
- MultiPoint Services Role – Windows Server 2016
- Windows MultiPoint Server 2012
- Windows MultiPoint Server 2011
- Windows 10 Enterprise Edition (64-bit)
 - Up to version 20H2
- Windows 10 Pro Edition (64-bit)
 - Up to version 20H2
- Windows 8.1 (64-bit)
- Windows 7 SP1 (64-bit)

対応するNComputing Access Devices と Clients:

- RX420(RDP) with firmware version 1.12.8
- RX-RDP+ with firmware version 1.12.8
- RX300 with firmware version 4.0.5
- LEAF OS 2.2.18 or higher (BYOD or repurpose old x86/x64 PCs and laptops)
- L250, L300 and L350 (L-series) with firmware version 1.15.8 or newer
- M300, MX100S and MX100D (M/MX-series) with firmware version 2.4.8
- vSpace Pro Client for Windows**, version 2.6.0
- vSpace Pro Client for Chromebook**, version 1.8.2

対応するvSpace Manager:

- vSpace Manager, version 1.8.7

* ライセンスの詳細についてはこちら: <http://www.ncomputing.com/mslicensing>.

** vSpace Clientは、デスクトップセッションのみがサポートされており、他のアクセスデバイスで利用できる管理オプションは含まれていません。

サポートされているServer OSのバリエーションはStandard、Enterprise、Datacenterの3種類です。なお、OSは64ビット版のWindows OSのみ対応しています。

以下の注意事項には重要な情報が含まれています。インストールと導入をスムーズに行うために、このドキュメント全体をお読みください。

本リリースについて:

vSpace Pro Enterprise Editionは、vSpace Proの今後の機能強化と開発の中心となる製品です。vSpace Pro Enterprise Editionには、大規模なデプロイメントのためのスケーラビリティの向上、Windows Server 2019を含む最新のWindows OSのサポート、マルチタッチモニターのサポート、高度なUSB周辺機器のサポートなどの高性能な機能が搭載されています。

このvSpace Pro Enterprise Editionは、年間保守プログラム(AMP)のプランに準拠しているNComputingのお客様が対象です。AMPプランに準拠していないお客様は、vSpaceへのアクセスが制限される場合があります。

vSpace Pro Enterpriseは、無料でダウンロード・インストールできます。デフォルトでは、すべての機能が利用可能なトライアルモードで開始されますが、以下のように制限されています。トライアルモードを解除するには、接続しているエンドポイントに必要なライセンスを購入する必要があります。トライアルモードでの制限事項は、モデルによって異なります。以下の動作は、既存のライセンスを持たないお客様のアカウントに適用されます。お客様のライセンス要件が不明な場合は、NComputingの担当者にお問い合わせください。

Table 1: vSpace Pro Enterpriseトライアルモード時の動作 (version 12.5.2以降のバージョン)

エンドポイント	トライアルモードの制限	トライアルモードを解除するために必要なライセンス
<ul style="list-style-type: none">• RX300• L250, L300, L350• M300• MX100S, MX100D	最大で5つのセッションを同時に行うことができます。セッションの時間制限はありません。	AMP for Space Pro (per device) (SKU:NC-AMP-1A)
<ul style="list-style-type: none">• RX420(RDP)• RX-RDP+• vSpace Pro Software client for Windows• vSpace Pro Software client for Chrome	最大で5つのセッションを同時に行うことができます。セッションは10分後に自動的に終了します。タイムアウト後も、ユーザーは再度サインインすることができます。	vSpace Pro Software Connection license* (per concurrent user session) (SKU: vSpacePro-SW-1A)
<ul style="list-style-type: none">• LEAFOS(x86/64)• LEAFOS(PI4)	最大で5つのセッションを同時に行うことができます。セッションは10分後に自動的に終了します。タイムアウト後も、ユーザーは再度サインインすることができます。	LEAFOS Software Connection license* (per concurrent user session) (SKU: LeafOS-SW-1A)

*注:RX420(RPD)、RX-RPD+、またはvSpace接続ライセンスをバンドルして購入したLEAF OS デバイスは、トライアルモードの動作の対象外でありフルアクセスが可能です。

NComputingの年間保守プログラム(AMP)とそのメリットについては、以下のリンクから

ご確認ください: <https://www.ncomputing.com/products/vSpace/vSpace%20PRO%20AMP>

[NComputing software end-user license agreement](#) も合わせてご確認ください。

新製品の機能、変更、改善(12.5.2)

vSpace Pro Enterprise Edition version 12.5.2は、以前にリリースされた version 12.4.0(およびそれ以前のすべてのEnterprise Edition version)に代わるメジャーな製品リリースで、機能強化とバグ修正が行われています。このバージョンでは、以前のvSpace Pro Enterprise Editionのバージョンからすべての機能と強化点を引き継いでいます。

重要な注意事項:

NComputing社は、vSpace Proソフトウェアのセキュリティ証明書を強化したものに移行しました。vSpace Proの以前のバージョンにはSHA1セキュリティ証明書が付属していましたが、業界のトレンドに従い、現在はvSpace ProでSHA2セキュリティ証明書のみを使用しています。

Windows 7またはWindows Server 2008 R2を使用していて、SHA2セキュリティ証明書のパッチがOSに適用されていない場合は、vSpace Pro Enterprise 12.5.2をインストールできません。この場合、SHA2セキュリティ証明書を受け入れるようにアップデートする必要があります。その他の新しいWindows OSは、デフォルトでSHA2セキュリティ証明書をサポートしています。

このバージョンのvSpace ProソフトウェアをWindows 7およびWindows Server 2008 R2にインストールする前に適用しなければならない特定のMicrosoft アップデートを含む要件の詳細については、当社の「[Knowledge Base article](#)」を参照してください。

vSpace Serverの機能強化:

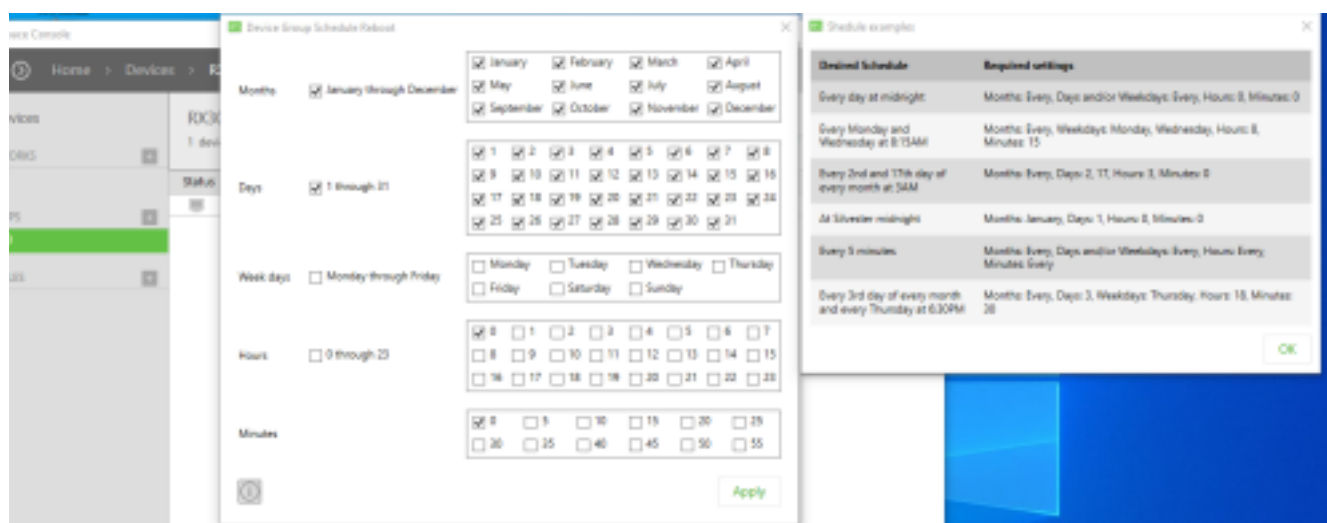
- Windows 10 20H2 に対応
- vSpace Pro Enterprise Edition - vSpace Pro Software Client接続と LEAF OSソフトウェア接続のトライアルモード(上記のTable 1をご参照ください)
- ブラウザのスクロールパフォーマンスの向上
- 一部のエンドポイントでのvSpace接続において、最大2560x1440のディスプレイ解像度をサポート
この解像度はQuad High Definition (QHD)または2Kと呼ばれています。
- vSpace Pro Enterprise Editionで2Kディスプレイ解像度をサポートするエンドポイントは以下のとおりです。
 - o RX420(RDP) - (version 1.12.8 以上)。
 - o vSpace Pro Software Client for Windows (version 1.6.0.1.132 以上)
 - o LEAFOS デバイス (version 2.2.18 以上)

vSpace Consoleの機能強化:

- ・vSpace Consoleから冗長な外部の.NET Frameworkとの依存関係を削除しました
- ・vSpace Pro Enterprise ConsoleにLEAFOS(PI4)の新モデルのサポートを追加しました
- ・RXシリーズでWiFiとEthernetの両方が有効になっている場合、vSpace Consoleには2つではなく1つのデバイスしか表示しないようにしました

- ・RX300の version 4.0.5のデバイス管理をサポートしました(Raspbian Desktop操作モードなし)
- ・vSpace Consoleでデバイスの「Groups」に対する新しい「Task Schedule」機能をサポートしました (詳細は[このKB](#)を参照してください) 下記のスクリーンショット参照

- デバイスの再起動のスケジューリング(再起動スケジュールの繰り返し)
 - ・サポートされるエンドポイントはL/M/MXシリーズおよびRXシリーズ(RX300、RX-RDP+、RX420(RDP))です
- デバイスのシャットダウンのスケジュール(シャットダウンスケジュールの繰り返し)
 - ・サポートされるエンドポイントには、すべてのRXシリーズが含まれます
- ファームウェアアップデートのスケジュール設定(繰り返し無し)
 - ・サポートされるエンドポイントはL/M/MXシリーズおよびRX300です



vSpace ServerとvSpace Consoleのバグ修正:

- ・RDSL-7371 - 特定のWindows OSで、インストール後の最初の数分間、vSpaceセッションでvSpace Serverに接続できない
- ・RDSL-7369 - まれにログイン画面のサイズが正しくないことがある
- ・RDSL-7364 - デュアルディスプレイでディスプレイの解像度が2560x1440に設定されている場合、vSpaceセッションでマウスの座標が正しくない
- ・RDSL-6409 - エンドポイントに接続された特定のUSBペンドライブが、Windows 10およびWindows Server 2016ホストマシンのすべてのvSpaceセッションで表示される

vSpace Pro Enterprise Edition 12.5.2に付属する**RX300**ファームウェアバージョン**4.0.5**では、以下の新機能が追加されています:

- ・追加のVPN
 - L2TP/IPsec VPN
 - IKEv2/IPsec VPN
 - FortiClient SSL VPN
- ・ファームウェアの更新情報の通知
- ・サブネットタグのサポート (PMC 2.6で管理される場合)
- ・カスタムのブートスプラッシュイメージを設定する機能
- ・vSpace Consoleが送信するシャットダウンコマンドのサポート

ご注意:

RX300の firmware version 4.0.5では、Raspbian Desktopのオペレーションモードが完全に削除され、元に戻すことができません。Raspbian OSを含む大容量記憶装置パーティションは、4.0.5のファームウェアアップデート中追加の通知なしに削除されます。Raspbian OSパーティションに保存されているすべてのデータは、回復不能な形で消去されます。デバイスがRaspbianデスクトップモードに切り替わったときに作成されたユーザーファイルが、Raspbian OSパーティションに保存されている場合は、そのファイルを削除する必要があります。Raspbian OSパーティションに保存されているユーザーファイルがある場合は、デバイスのファームウェアをversion 4.0.5にアップデートする前に、外部ストレージデバイスにコピーする必要があります。そうしないと、ファイルが失われてしまいます。

RX300 firmware version 4.0.5でのその他の改善点:

- ・イーサネットケーブルを接続した後にVPNを再接続するようになりました
- ・イーサネットケーブルを接続した後、NTPの日付と時刻を更新するようになりました
- ・NComputingのデフォルトの壁紙が新しくなりました
- ・vCAST web streaming componentsの更新

version 4.0.5では、以下の**RX300**ファームウェアの問題が修正されています:

- ・RX-1910 - 手動で追加された証明書ファイルのMD5 sumsの計算が間違っている